

「難病患者の意思決定支援」

令和8年2月13日(金) 14:00~18:00

山口大学医学部総合研究棟A 医修館 2階 第2講義室

参加者
48名

講演

「難病患者の意思決定支援」



荻野美恵子先生

- ・在宅支援に関わる医師の考えが聞くことができたことと、実際の現場での話を聞くことができて、今後の業務に活かしたいと強く思った。
- ・ALSの現状や知識を得る事ができました。意思決定支援にはどの段階の対象者に対しても意識するべきだと感じて大変参考になりました。
- ・荻野先生のスタンスに強く共感することができた。特に自己決定を行う際に問うようにあえてゆらすというスタンスは大事だと感じた。人間らしさはこのゆらぎの中にあると考えれば、そこにその人らしさが浮かぶのだと思いました。

グループディスカッション

- ・訪問看護、ケアマネジャー、医師、多職種の方の考えを聞くことができて刺激になった。
- ・多職種で日常の苦勞を共有し、共感が得られて良い機会になりました。
- ・グループで話すことで、現場で取り組んでおられる事例対応について、いろいろと聞くことができたので良かった。
- ・総評で現場で取り組んでおられる具体的な事例を荻野先生が話してくださったので、とても参考になりました。立場が変わっても支援の在り方は同じ。自分を認める。相手を知る。しっかり話を聞く事の大切さ、伝え方の工夫など参考になった。今後の業務に活かしたいと強く思った。

山大病院YouTubeチャンネル配信

令和8年3月3日(火)~3月31日(火)(期間限定)

視聴回数
615回

ご講演が好評につき、山大病院YouTubeチャンネル期間限定配信しました。

- ・患者自身の発言をそのまま聞き入れるのではなく、本当の所はどう考えているのだろうか…という本心を見極める視点を常にもっておく必要があると改めて考えさせられました。ただ、地方の医療従事者の経験値や医療レベルといったものを考えると、私の経験でも、周囲から聞く話からでも、足りていないと思う印象は強い。もし自分が自分の人生を決めなければいけないような立場になったら、神経難病の終末期をしっかりと理解してくださっている医療従事者の方が担当であってほしいと願う。そして私自身、命に直接関わる仕事ではありませんが、本人の意思決定を支える存在となれるような仕事が出来たらと思いました。
- ・最終的な意思決定支援にかかわることがあまりないが介護が必要になったり、判断能力の低下により支援が必要になっている方の意思を確認していきたいと思うことが多々ある中で、なかなかチームで意思決定の支援をするという機会がなく、介護支援専門員として人生会議をすべきであると地域の総合病院から勧められる場面がある。気負うことなく、その都度、本人の意思を確認して必要な説明をすること。家族ともサービス事業者とも共有していくことが必要であると再認識した。

多くの方にご参加、ご視聴いただきましてありがとうございました。